
遊戯王CrossEveryday ~それが俺達の日常~

優雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王CrossEveryday（それが俺達の日常）

【Nコード】

N5043Z

【作者名】

優雅

【あらすじ】

時は不動遊星達、チーム・5D'sが活躍した時代から数十年後…ネオドミノシティはニュー童実野タウンとして生まれ変わり階級社会もなくなっていた。デュエルアカデミア・ニードミノ校に通う中等部2年生の神風夜空は流星群の夜、伝説のデュエリストに会いたいと願う。そんな彼の寮の部屋に突如現れた少年。彼は何と記憶をなくしていた！彼が覚えているのはデュエルと一般常識のことのみ。夜空はそんな彼に名前をつける。聖夜という名前を…。果たして聖夜の正体とは？彼らに待ち受ける戦いとは？聖夜と夜空のデ

ユエルが今始まる！

ブローグ ファーストコンタクト

「くそ、『!』」

マーカーを付けた青年が怒りの声で叫ぶ。

それを見た銀髪の青年は狂ったように笑いだす。

「ククククツ、辛いか、苦しいか？その心が凍てつけばどんなに面白いか…!!さあ、凍てつけ、その熱き心よ!!」

「ぐっ、うあああああああ!!!!」

マーカーの青年は胸を抑え苦しむ。その様子を見ながら青年は笑った。

「じゃあな…せいぜい俺を楽しませろよ？不動遊星…」

そして青年はぐったりと倒れている遊星の額に口づけをおとした。

《助けて…》

誰…？

《助けてください…》

誰だよ…！？

《お願い、あの子を助けて…》

？

お前が助けてほしいんじゃないのか？

《絆の星を、お願い、あの子を助けて…》

誰だよ、いったい誰…？

《お願い…この世界の希望を…絆の星を…》

お、おい待ってっ！おい！！

ボタンッ！！

「ま、待…て…」

俺は椅子から転げ落ちた。

「ずいぶん気持ち良さそうに寝てたな神かん屈。」

「く、クラトス先生……………」

「宝玉獣と名のつくモンスター共通の効果を考えてみる。」

「は、はい。宝玉獣は破壊されると墓地へはいかずに永続魔法扱いでマジック、トラップゾーンに置かれます。」

「ではそれはどこで破壊された場合だ？」

「モンスターゾーンです。」

「いいだろう。座れ。」

「はい。」

俺は再び席に着くと頬杖をついて窓の外を見る。

俺の名前は神かん屈なま夜よ空でい。このデュエルアカデミア・ニードミノ校の中等部に通う2年生の14歳。

ごくごく普通のデュエリストだ。

好きな科目はデュエル実技とデュエル理論にデュエル歴史、嫌いな科目は国語の漢字。

尊敬するデュエリストは武藤遊戯、遊城十代、不動遊星の3人。

とにかく元気で普通の中学生デュエリストです。

キーンコーンカーンコーン キーンコーンカーンコーン

「では、このp15ページのデュエル歴史は宿題とする。明日までにきちんとやってくるように。」

「……はい。」「」

「きをつけー、礼!」

「……ありがとうございますー」「」

お、終わったみたいだな。

俺は食堂に行くため席を立つ。

「夜空が居眠りなんて珍しいな、何かあったのか？」

そう言いながら俺に近づいてきたのは腐れ縁の友人でありクラスメイトの霧乃蘭丸。きりのらんまる
後ろにはあいつの幼馴染であり俺の友人兼クラスメイトの神童拓人。しんどうたくと
もいる。

「俺だって万能じゃないんだし居眠りくらいするさ。」

「デュエル理論のときは絶対居眠りしないのか？」

「昨日までデッキ調整してたとかだろ？」

「蘭丸はわかってってくれて助かるよ。そつ、昨日俺はデッキ調整してましたー」

俺達は話しながら食堂の窓際の席に着く。

「何にする？」

「俺はハンバーグ定食だな。」

「俺は豚汁定食！」

「拓人がハンバーグ定食で蘭丸が豚汁定食か…じゃあ俺はシチュー定食にするか。」

ジャンケンで俺が負けて俺は2人からお金をもらって買いに行く。

買ってくると俺達の可愛い後輩である松風天馬がいた。

「天馬！」

「夜空先輩！」

俺は食事を置くとその天使のような笑みに癒される。

「あゝ天馬の笑顔見ると癒される〜」

「『同感！』」

天馬は俺達と並んでカレー定食を食べ始めた。

「先輩達が見えたので来たんです。信介や剣城遅くなるって…」

「ああ、あいつらクラス交流戦の実行委員だったけ？」

このデュエルアカデミア・ニュードミノ校では1ヶ月に1度、クラス交流戦がある。

クラスの代表がデュエルをして優勝者のいるクラスには食堂のスィーツ食べ放題権が当たると言うものだ。

クラスのレベルを図る大事な試合だったな…

「俺達の代表は夜空だよな。」

「ああ。」

「じゃあ天馬と戦うかもしれないな。天馬、夜空なんて蹴散らしちやえよ！」

「霧乃先輩、自分のクラスの代表応援しないんですね…」

天馬は苦笑いしながら頑張りますと言う。
これが当たり前の日常。

「デュエルしましょう夜空先輩！」

「いいぜー！」

でも、もっと…

「面白いこと起きてくれないかなあ…」

俺は寮にてそんなことを考えていた。
すると流れ星が流れた。

「そうか、今日は確か流星群が流れるとか言ってたな。」

まだ冬なのに…

まあ、せっかくだし願い事するか

「伝説のデュエリストに出会えますように……って無理かー！」

彼らに会うためには時を超えなくてはならない。

そんなの普通に無理だ。

ドンガラガツシャーン！！

「!?!」

俺は音のした方に顔を向ける。

俺の部屋のリビングにぶかぶかの服を来た今では廃止されているマーカーを付け、金色のメッシュが入った黒髪の少年が倒れていた。

「誰?というか大丈夫かよ!?!おい!?!」

呼びかけるが起きない。

とりあえず俺はそいつをお姫様抱っこして部屋のベッドに寝かせた。

これが俺と大切な家族である『せいや聖夜』とのファーストコンタクト…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5043z/>

遊戯王CrossEveryday ~それが俺達の日常~

2011年12月17日01時57分発行